

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-75	高等学校	国語科	言語文化	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	言文 704	新言語文化		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、中学校の国語学習の到達点を意識し、高等学校の国語学習が円滑にスタートできるよう、基礎・基本をふまえ、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけまし

た。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もっとも基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという作業は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、話す・書くの領域における表現活動と、聞く・読むの領域における理解活動とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。この教科書では、表現、理解の学びに独自の学習の場を設定することで、それぞれの学習の場において、生徒たちの活発な学習活動を促し、話す・聞く、書く、読むの全ての領域にわたる言語能力を高めるよう配慮しました。その際、これまでの内向的な学びの傾向への反省から、自分の意見や考えを積極的に発信することで、他者ととともにする協働的な活動を通して、開かれた個性の育成、広範な教養の育成を目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいるどる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題についても格別の配慮をしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
千年の時が与えてくれる安堵	古典と現代とのつながりについて扱った文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した(第五号)。	12～19
枕草子 春はあけぼの／ありがたきもの	筆者の美意識や感性が表れた文章を読むことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことを目指した(第一号)。	22～27
故事二編	現在も使用されている言葉の由来となった文章を読むことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことを目指した(第一号)。	32～39
ゴール	働くことや、生きることの意味が見失われつつある現代の管理社会や、そのシステムについて扱った文章を読むことで、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した(第二号)。	42～48
沙石集 児の飴食ひたること	現代でも言語芸術として継承されている題材のもととなった文章を読むことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことを目指した(第一号)。	58～62
説苑 景公之馬	儒家思想を根底とした、君主への巧みな諫言が記された文章を読むことで、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	64～70
羅生門	追いつめられた状況の中での人間の考え方や心の動きについて記された文章を読むことで、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	72～86
伊勢物語 芥川／筒井筒	古代から現代までのさまざまな作品に大きな影響を与えた作品の文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した(第五号)。	96～103
和歌十首・短歌七首	我が国の言語芸術の軸を担ってきた和歌・短歌を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した(第五号)。	108～116
野焼	言葉が、生活に根づいた作業と密接に結びついていることについて扱った文章を読むことで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した(第四号)。	118～123

オムライス	人間関係が希薄な現代社会において、他者への想像力や自己の確立について扱った文章を読むことで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した(第二号)。	130～136
十八史略 鶏口牛後／先從隗始	混迷を極めた乱世に、巧みな比喻表現を用いて為政者を説得し、社会を動かした人物の言動が記された文章を読むことで、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	140～144
平家物語 木曾の最期	極限状況の中で生きる人間どうしの関係性や言動について記された文章を読むことで、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うことを目指した(第三号)。	146～153
漢詩四編 静夜思／江南春／月夜／香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁	我が国の文化に多大な影響を与えた中国の漢詩を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	164～172
待ち伏せ	戦場という状況における人間の行動や心の動きについて記された文章を読むことで、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した(第四号)。	176～184
インタビュー 「人間」を描きたい	海外で日本文化を広める活動をする人物の記事を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した(第五号)。	188～195
徒然草	筆者の人間を見る目、ものの感じ方、美意識などが表れた文章を読むことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した。(第一号)	200～205
なめとこ山の熊	猟師と熊との宿命的交流が描かれた文章を読むことで、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した(第四号)。	210～223
論語八章	道義的理想を掲げ、それによって社会の秩序の確立を目指した儒家の思想が表れた文章を読むことで、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した(第三号)。	226～231
春を切り抜く 夏を切り抜く 秋を切り抜く 冬を切り抜く	季節を素材として、表現を工夫しながら、自分の思いや考え、感じたことを表現した文章を書くことで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うことを目指した(第二号)。 風物詩や伝統行事を素材として、調べたり考えたりしたことを書くことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことを目指した(第五号)。	53～56 91～94 159～162 235～238

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。
- ❖ 資料編の「思考の方法」などでは、文字による解説に加え、わかりやすい図解を用いることで内容を視覚的に捉えられるよう工夫しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-75	高等学校	国語科	言語文化	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	言文 704	新言語文化		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

主体的に学ぶ

① 自ら学ぶ力を育てる — 学習の見通しと振り返りを位置づけ、「学びに向かう力」を培う

- 単元の目標とテーマを踏まえ、各教材に「学習テーマ・見通し」と「振り返り」を設定しました。これにより、学習活動を通して身についた力を自分で確かめ、次の学習にいかすことができます。
- 学習の系統化により、学習指導要領の「知識及び技能」の事項を段階的・体系的に習得できます。
- はじめに「入門単元」を置き、言語文化の学習に意欲をもって取り組めるように工夫しました。
- 「読むこと」は、大きく二つの系統に分け、「我が国の言語文化」を中心に学ぶ単元（1・3・5単元）と、「文学を読む力をつけ、味わうこと」を中心に学ぶ単元（2・4・6単元）で構成しています。
- 「書くこと」は、「春・夏・秋・冬」をテーマに、興味をもって取り組める四つの単元を設定しています。
- 各教材の「羅針盤」（学習の手引き）では、丁寧で効果的な学習のプロセスを示しました。「課題」を通して内容の理解を行った上で、「協働的な学びのために」や「探究的な学び」を通して、「言葉による見方・考え方」をはたらかせられるように、多様な学習場面を設定しています。
- 自ら学びを確認したり深めたりするために、「二次元コード」を適宜配置しています。

見通し

主体的・対話的で深い学び

振り返り

ステップ1 目標の確認

目標を確かめて、学習の見通しをもちます。

ステップ2 教材の内容を理解する

学習課題を整理・確認して、文章の内容や構成を的確につかみます。

ステップ3 学習を深め、考えを形成する

ステップ2で整理・理解したことをもとに、他者との対話を通して、自分の考えを深めたり、広げたりします。

ステップ4 探究的に学習を進める（自由課題）

さらに学びを深めるための自由課題の例を設定し、一人一人の個に応じた学習が可能となります。

ステップ5 学習の振り返り

自分の学習を振り返って、これからの学習へ生かします。

+α 学びを深める（広がる読書・コラム）

ステップ1～5までの学習を活用して取り組むとともに、新たな文章や資料を参照するなどして、学びをさらに広げたり、深めたりします。



<各教材の基本的なつくり>

<学習テーマと見通しの明示>

<「語彙を広げる」の例>



②生きてはたらく力を培う 一言で考える力を育て、語彙力を拡充する

- ・古典を読むために必要なきまりの学習への誘いとして、「古文を読むために」「漢文を読むために」を教材内に適宜配置し、学習活動の文脈の中で適切に理解し、活用できるようにしています。さらに、「資料編」にリンクさせ、詳しく理解することで、必要に応じた知識を身につけられる構成としました。
- ・「羅針盤」の中に設定した「語彙を広げる」では、教材に関連した「語彙」を取りあげることによって、語感を磨き、文化的背景や言葉の変化についてのより深い理解を目指しました。
- ・「資料編」には、「基本古語辞典」や「常用漢字 高校で学ぶ音訓と用例」を掲載し、さらなる語彙力の拡充を目指しています。
- ・現代の生活に密着した「コラム」を教材のあとに配置し、生涯にわたる能動的な学びを促すことを重視しています。

古文を読むために	
①	歴史的仮名遣い
②	用言・活用・係り結び
③	助動詞・助詞
④	和歌の修辞
⑤	敬語
漢文を読むために	
①	訓読の基本
②	漢詩の形式

古文を読むために 4

和歌の修辞

立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし顔かば今傳り来む (古今和歌集・小倉百人一首 中納言行平)

この歌の言葉の連綴を解さばぐしていくとどうなるだろうか。次のように書いてみるとわかりやすいだろう。

立ち別れ 去な

いなばの山の峰に生ふる まつとし顔かば今傳り来む

社任先の因幡国(現在の鳥取県)に向かう作者の別れの歌であるとされるが、次のような内容を伝えようとしている。「まつとし」の「し」は強意の助詞である。

(私は)別れて「去ぬ(いさる)」のだが、その「玉女」と同じ「いなば(因幡)の「種」(葉山)に生ふる「顔」(と顔じ)「まつ」と(あなたが思うのを)聞いたら、すでに構ってきましよう。

手のごんだ言いまわしたが、「いな(「まつ」)に二重の意味をもたせている。僅か三十一文字の中にどれほど豊かな情報量と思いを託せるかが、掛詞の生命線である。

資料編 282ページ

<「古文/漢文を読むために」項目一覧と誌面の例>

対話をとおして学ぶ

③協働する力を育む 対話と合意形成、そしてコミュニケーション能力の育成のために

- ・全ての教材の「羅針盤」に、「協働的な学びのために」を配置し、ディスカッションによる意見交流や多様な表現活動を取り入れました。
- ・対話を通して考えたり、問題を解決したりする機会と場を充実させました。
- ・第1単元「ゴール」の羅針盤の「読書交流会」をはじめとして、活動を行う際の参考になる例を具体的に示しました。
- ・さらに「資料編」には、「言語活動のための基礎用語集」を掲載し、言語活動の充実に資するようにしています。

④「共生社会」の一員として 多様な価値観、ものの見方・考え方の拡充

- ・価値観が多様化するグローバル社会で求められる、幅広い資質・能力の育成につながる教材を精選しました。
- ・例えば第6単元「徒然草」では、SDGsを取りあげ、人間、社会、自然などの広い視野から考えを深める問いを設定しています。

協働的な学びのために

「坊主」と「尼」は、それぞれどのような人物として描かれているか。人物設定を整理して考え、交流しよう。

資料編 266ページ

探究的な学び

物語のおもしろさを引き出す構成要素には、どのようなものがあるか、考えてみよう。

<「協働的な学びのために」「探究的な学び」の例>

深く学ぶ

⑤自分の考えを形成する —思考力・判断力・表現力

- ・全ての教材において、自分の考えを表現する（書く・話す）学習を重視しました。
- ・特に対話を通して、考えたり問題解決したりする機会と場を充実させました。また、調べたり情報を解釈したりしながら課題に向き合うことで、柔軟で多面的な思考を育成することを目指しました。
- ・最後の「選択総合単元」では、「言語文化」の学習の総合化を期し、課題や作品、発表形式を自分で選び、創意工夫を追究する学習を展開できるよう構成しました。

⑥言葉と文化の担い手として —豊かな読書、伝統的な言語文化の継承・発展を目指して

- ・単元末尾の「ブックガイド」には、多様なジャンルの読書に誘う表紙を掲載し、本を媒介とした豊かな言語文化にふれることを目指しています。
- ・「広がる読書」を適宜配して、さまざまな文章にふれる機会をつくっています。「作家とよむ」シリーズには、現代の作家（川上弘美、高橋源一郎ほか）による訳文とエッセイを掲載し、古典の現代的な意義を考えるための入口を設けています。また、「まなの本棚」（芦田愛菜）など、多様なテキストやメディアを採録しています。



＜広がる読書の例＞

2.対照表

単元	身につけたい言葉の力	図書の構成・内容 [教材名]	学習指導要領の内容	該当箇所 (ページ)	配当 時数
入門	言語文化の現代的な価値を考える	千年の時が与えてくれる安堵 (小川洋子)	●読イ 精査・解釈 ◆言葉ア 言葉の働き	12~19	読 2
		コラム 花といえば……?		20	
1 読書は生きる力	文章に表れたものの見方・考え方を捉える	枕草子 春はあけぼの／ありがたきもの (清少納言)	●読ア 構造と内容の把握 イ 精査・解釈 ◆言葉ウ 語彙 エ 文や文章 ◆言語文化カ 読書	22~27	読 9
		コラム 古典はすぐ目の前に		28~29	
		広がる読書 作家とよむ「枕草子」 (酒井順子)		30~31	
	慣用的な表現を捉える	故事二編 虎の威を借る／朝三暮四		32~39	
		コラム 辞書を引く・辞書を読む		40~41	
		ゴール (三崎亜記)		42~48	
物語の解釈の多様さを考える	コラム 読書の履歴書	49			
	広がる読書 背表紙がキラリと光って見えるんです (芦田愛菜)	50~51			
春を切り抜く	構成や描写を工夫する	【俳句】 たんぼぼの… (坪内稔典) はまぐりの… (権未知子) 夜桜や… (黛まどか) 【歌詞】 SAKURA (水野良樹) 【詩】 見えないだけ (牟礼慶子)	●書ア 題材の設定、情報の収集、内容の検討 [言語活動] ア フォトレポートに表す ◆言葉イ 漢字 ウ 語彙 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化	53~56	書 2
2 物語は無限に展開する	物語を構成する要素を捉える	沙石集 (児の飴食ひたること)	●読ア 構造と内容の把握 ウ 精査・解釈 [言語活動] イ 批評や討論 ◆言葉イ 漢字 オ 表現の技法 ◆言語文化ウ 伝統的な言語文化	58~62	読 9
		コラム 「飴」から「砂糖」へ		63	
	物語の全体構成を捉える	説苑 景公之馬		64~70	
		コラム 蛍の光は誰を照らす		71	
	物語の展開を把握する	羅生門 (芥川龍之介)		72~86	
		コラム 羅城門には鬼が棲む		87	
広がる読書 作家とよむ「今昔物語集」 (福永武彦)	88~89				

夏を切り抜く	素材のよさや味わいを生かす	<p>【短歌】 逆立ちして… (河野裕子) 声もたぬ… (小島なお) 明日消えて… (千葉聡)</p> <p>【俳句】 夏嵐… (正岡子規) 犬抱けば… (高柳重信) 背泳ぎの… (石田郷子)</p> <p>【小説】 きつねのはなし (森見登美彦)</p>	<p>●書ア 題材の設定, 内容の検討 [言語活動] ア 短歌・俳句に表す</p> <p>◆言葉イ 漢字 ウ 語彙 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化</p>	91~94	書2			
3 言葉は時空を駆けめぐる	物語に表れた心情表現を考える	<p>伊勢物語 芥川/筒井筒</p> <p>コラム 伊勢物語と源氏物語</p> <p>広がる読書 作家とよむ「伊勢物語」東下り (川上弘美)</p>	<p>●読エ 精査・解釈 オ 考えの形成 [言語活動] エ 話し合いや文章にまとめる</p> <p>◆言葉オ 表現の技法 ◆言語文化ア・イ 伝統的な言語文化</p>	96~103	読9			
	作品世界を豊かに想像する	<p>和歌十首 小倉百人一首より 短歌七首 近代・現代の短歌</p> <p>コラム 歌人の腕の見せどころ</p>		104~105				
	言葉と文化の関係を捉え直す	<p>野焼 (榎未知子)</p> <p>コラム 俳句をさかのぼる</p> <p>広がる読書 豊かな日々を歳時記と (夏井いつき)</p>		106~107				
				108~116				
4 人の心は万華鏡	心情表現の多様さを捉える	<p>オムライス (宮下奈都)</p> <p>コラム 文学は今……</p> <p>広がる読書 アマガエル (太田光)</p>	<p>●読イ・ウ 精査・解釈 [言語活動] イ 批評や討論</p> <p>◆言葉エ 文や文章 ◆言語文化ウ 伝統的な言語文化 オ 言葉の由来や変化, 多様性</p>	130~136	読9			
	言語表現の多様さを捉える	<p>十八史略 鶏口牛後/先從隗始</p> <p>コラム 三国志を楽しもう</p>		137				
	人物像を批評する	<p>平家物語 木曾の最期</p> <p>コラム 平家物語紀行</p> <p>広がる読書 作家とよむ「平家物語」 (吉村昭)</p>		138~139				
				140~144				
				145				
				146~153				
秋を切り抜く	語句や表現技法を吟味する	<p>【詩】 落葉 (ポール・ヴェルレーヌ) 素朴な琴 (八木重吉) 丹沢 (蜂飼耳)</p>	<p>●書イ 構成の検討, 考えの形成, 記述, 推敲, 共有 [言語活動] ア 詩に表す</p> <p>◆言葉イ 漢字 ウ 語彙 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化</p>	159~162	書2			
5 共感海を越える	作品の背景を想像する	<p>漢詩四編 静夜思 (李白) 江南春 (杜牧) 月夜 (杜甫) 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁 (白居易)</p> <p>コラム 漱石、漢詩をつくる</p> <p>広がる読書 翻案 漢詩から詩へ</p>	<p>●読エ 精査・解釈 オ 考えの形成 [言語活動] ア 論述や発表</p> <p>◆言葉ア 言葉の働き ◆言語文化ア 伝統的な言語文化 エ 言葉の由来や変化, 多様性</p>	164~172	読9			
	物語の役割を考える	<p>待ち伏せ (ティム・オブライエン・村上春樹訳)</p> <p>コラム 翻訳された日本文学</p> <p>広がる読書 翻訳の神様 (村上春樹)</p>		173				
				174~175				
				176~184				
	言語文化の価値を捉え直す	<p>インタビュー 「人間」を描きたい (話し手 野村萬斎・聞き手 高橋克明)</p> <p>コラム 言語芸能の世界入門</p>		184		185~187	188~195	196~197

6 文学は主張する	身のまわりの物事を批評的に捉える	徒然草 神無月のころ／家居のつきづきしく（兼好法師）		200～205	読9
		コラム 隠者の系譜	●読む 精査・解釈 オ 考えの形成	206	
	物語を批評的に捉える	広がる読書 作家とよむ「方丈記」（蜂飼耳／ピーター・J・マクミラン）	[言語活動] オ 発表や文章にまとめる	207～209	
		なめとこ山の熊（宮沢賢治）	◆言葉ウ 語彙 エ 文や文章	210～223	
ものの見方・考え方を振り返る	コラム まだあげ初めし前髪の	◆言語文化ウ 伝統的な言語文化 エ 言葉の由来や変化、多様性	224～225		
	論語八章		226～231		
冬を切り抜く	表現効果を高めようとする	広がる読書 作家とよむ「論語」（高橋源一郎）		232～233	書2
		【随筆】 月あかり雪あかり花あかり（青木玉） 雪から花へ、雪から死へ（天沢退二郎） 【詩】 冬が来た（高村光太郎）	●書イ 構成の検討、考えの形成、記述、推敲、共有 [言語活動] ア 随筆に表す ◆言葉イ 漢字 ウ 語彙 ◆言語文化ア 伝統的な言語文化	235～238	
選択総合 言葉紡ぎ出す	自らの課題を決め、解釈、批評、表現を追究する	サーカス（中原中也）	●読むウ・エ 精査・解釈 オ 考えの形成	242～243	読4 書2
		コーヒーカップ（三角みづ紀）	[言語活動] ウ論じる、批評する	244～245	
		神様（川上弘美）	●書ア 題材の設定、内容の検討	246～251	
		夢十夜 第一夜（夏目漱石）	イ 構成の検討、考えの形成、共有	252～254	
		「おくのほそ道」を歩く（森本哲郎）	◆言葉ア 言葉の働き	255～257	
		月の誤訳（多和田葉子）	◆言語文化ア・イ 伝統的な言語文化 カ 読書	258～259	
		土佐日記 門出（紀貫之）		260～261	
		雑説（韓愈）		262～263	
ブックガイド	（単元に関連した読書案内）	◆言語文化カ 読書	20,52,90,128,158,198,234,264		
資料編	物語を読むためのキーワード	①人物設定 ②舞台設定 ③心情表現 ④構成 ⑤転換点 ⑥語り手 ⑦時代・背景		266～269	適宜
	日本の言語文化史			270～274	
	古文のきまり	歴史的仮名遣い		275	
		用言活用表（文語・口語）		276～277	
		文語助動詞活用表		278～279	
		文語助詞一覧		280～281	
		和歌の修辞		282	
	基本古語辞典	敬語		283	
	漢文のきまり	訓読のまとめ		284～287	
		この教科書に出てくる漢文の基本句形	◎国語科の学習を効果的に進める上で役立つ知識及び技能を整理して示し、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度の育成を図っている。	288～289	
	言語活動のための基礎用語集			290～291	
	高校で学ぶ音訓と用例			292～294	
	言語文化参考図録	高校で学ぶ音訓と用例		295～297	
		古時刻・古方位・月の異名・陰暦月齢表		298	
旧国名・都道府県名対照図			299		
平安京条坊図・大内裏・内裏			300		
古文参考地図			301		
漢文参考地図		302～303			

※学んだことを深める場を用意するとともに読書に親しむ態度の育成を図るため、「広がる読書」を11箇所（配当時数は適宜）配置した。